

会議録（要点筆記）

会 議 名	平成 28 年度 第 2 回米原市環境審議会
開 催 日 時	平成 29 年 2 月 10 日（金） 午前 10 時 00 分～午前 11 時 45 分
開 催 場 所	米原市役所米原庁舎 会議室 2 A
出席者および欠席者	出席者：青山誠司委員、伊夫伎博夫委員、柏英樹委員、門脇政光委員、嶋野美知子委員、須藤明子委員（副会長）、仁連孝昭委員（会長）、藤田知丈委員、室谷菊司委員、八上弥一郎委員、皆川明子委員 事務局：山田経済環境部長、奥村課長、松居課長補佐、鎌田主任（環境保全課） 傍聴者：0人 欠席者：伊藤和典委員、谷口絹代委員、高森茂美委員、中野桂委員
議 題	議事 ・第2次環境基本計画基礎調査結果について 報告事項 ・平成27（2015）年度版米原市環境報告書について
結 論 （決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。）	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 第2次環境基本計画の将来像について、社会基盤としての環境、暮らしを良くする環境行政という考え方に立ち、米原市の独自性と市民が共感できる視点を持つ将来像を、議論を進める中で検討することとされた。 ➤ 第2次環境基本計画の指標について、特出しすべきもの以外、原則個別の数値目標を扱わないこと、自然の分野か人の分野かを区分けの目安とすること、量的評価ではない質的評価を活用することなどが確認された。 ➤ 第2次環境基本計画の策定について、審議会での議論や社会情勢を踏まえて、業者委託を進めていくこととされた。 ➤ 平成27（2015）年度版米原市環境報告書について、数値の提示の仕方や解釈等について、一部訂正することとされた。
経済環境部長 事務局 会長	<p>1 開会 （開会あいさつ）</p> <p>2 議事 事務局から、議事「第2次環境基本計画基礎調査結果」について説明（資料2、資料3）。</p> <p>市の総合計画の環境分野の理念「水清く緑あふれる自然と共生する安全なまちづくり」という将来像は、どういうことを意識しているのか。</p>

事務局	市の総合計画では、環境と防災が1つの章立てになっている。安全の確保には環境の保全が不可欠であるという結びつきを意識している。
伊夫伎委員	市総合計画に掲げられた成果指標のうち、木材供給量と間伐面積について、実現性を鑑みると目標値が高すぎるのではないか。
事務局	確認、整理をさせていただく。
会長	同じく市総合計画に掲げられた成果指標について、「新エネルギー導入に対する満足度」とあるが、これはどういうものか。 このような問いをされて市民は分かるのか。人によってイメージが異なるのではないか。
事務局	毎年実施している市民意識調査において、医療や福祉、教育等、市の施策について重要度と満足度を尋ねる設問があり、その中の1つの項目なので、「新エネルギーの導入」という大まかな聞き方となっている。 平成27年度は以前よりも満足度が下がっているが、平成24～26年度に実施していた太陽光や薪ストーブの補助制度が平成27年度以降なくなっており、その不満がこの中には含まれていると考えられる。
門脇委員	スローガンについて、具体性が無いように感じる。環境というのは地域社会の大元であり、そういう社会の底辺としての環境という観点も書き入れられないか。
事務局	市総合計画では、先人の積み重ねてきた自然環境を次世代につないでいくことを地域で目指そうという思いで、このようなスローガンとしている。
門脇委員	今の説明であれば分かるが、短いスローガンで表すのは難しいところがある。きれいなスローガンである必要はない。
会長	行政にはありがちだが、万遍なく網羅しようとして結局分かりにくくなっている。「これを守れば、次のことを守ることにつながる」という考え方に立ち、もう少し焦点を絞れないか。
事務局	これというものがあれば、それに絞る案もいいと考えている。 市総合計画は全体的な視点の計画だが、環境基本計画はそれをベースに具

	<p>体的にどうしていくのかを作り上げていくもの。市総合計画は変えられないが、環境基本計画はこの環境審議会の場で議論いただき、作っていききたい。</p>
副会長	<p>門脇委員の意見に賛成で、「底辺、ベースとしての環境」という考え方に立っている。スローガンでは、総計に配慮した点であろう「つながり」という言葉に最も違和を感じる。環境の計画なので、豊かな自然環境を守るということだけを出し、後はそれに付随するということでもいいのではないか。</p>
事務局	<p>そういう方向で整理していききたい。</p>
嶋野委員	<p>こういうキャッチフレーズにありがちだが、米原以外のどこのまちでも通じるものになっていると感じる。米原でしか通じないものにならないか。</p>
会長	<p>具体的に何か案があるか。</p>
嶋野委員	<p>琵琶湖というと滋賀県全体になるので、伊吹山が一番シンボリックではないか。水と自然が豊かなまちは日本全国どこにでもあるので、米原でしか通じない、これを見れば米原、と思えるようなものがよいのではないか。</p>
事務局	<p>具体の名称は難しい面があり、市内全域に通じるものである必要がある。</p> <p>市総合計画のキャッチフレーズを作る際も、米原市をイメージできるものという意見が出たが、議論をしていくなかでやはり非常に難しく、総合計画の場合は「つなぐ」という理念を鍵にした。「つなぐ」をキーワードに米原らしさにつなげていくという議論で、このフレーズにおさまっている。</p>
嶋野委員	<p>固有名詞は問題があるのか。</p>
事務局	<p>環境行政の方針を表す言葉になるのか、どこかに特定したものになってしまわないかを考える必要がある。</p> <p>意見をまとめられるフレーズがあればその方向でいきたいが、初めに決めてしまってそこで議論が止まるのもよくないので、計画の詳細を検討するなかで集約していければよく、新年度、業者委託も進めるので、また御議論をいただきたい。</p>
藤田委員	<p>全てのキーワードを網羅できる最大公約数的な言葉を選ぶと、結局なんでもありになる。こういう長さの標語というのは一番ありがちで埋没してしま</p>

	<p>うので、もっと尖ったものがよい。たとえば「びわ湖の素」というキーワードはPRされて市民権も得てきていると思うので、それを目指すという一言だけでもよいし、逆にいろいろな言葉を入れたいなら、誰が読んでも「米原市がこうなればいいな」と思う将来像を100字程度で作文するのもよい。スローガン1行で全部含めるとするのは目指さない方がいい。</p>
嶋野委員	<p>「Orite 米原」のような、一言で実情が分かるものがよいと思う。マイナス面も含まれており、非常にキャッチーだと思う。</p> <p>環境と安全が一体というのはそのとおりだと思う。</p>
皆川委員	<p>米原市内のすべての河川の水源に当たる場所を指す言葉はあるのか。</p>
事務局	<p>「びわ湖の素」であれば全てを網羅しているが、霊仙山系と伊吹山系に分かれている。姉川と天野川の上流に、伊吹山と霊仙山がある。</p>
副会長	<p>シティセールスの際に取られたアンケートで、県外の方は伊吹山とイメージされるのが非常に高かったと記憶している。霊仙は山脈だが、伊吹山は独立峰。シンボリックなのはやはり独立峰だと思う。新幹線からも見え、冬にそこだけ真っ白に見えるということで、非常に目立つ。そういう意味で、伊吹山にしてもいいのかなと思う。</p>
事務局	<p>伊吹山を打ち出すのは環境基本計画の中の一つの分野としてはよいと思うが、市全体の計画として整理するので、伊吹山をとすることは難しいかと思うが、これから協議させていただきたい。</p>
嶋野委員	<p>環境は直接関係が無いかもしれないが、薬草を復活させようという活動をしているが、ブランドが岐阜県や浅井の方に取られていて、せっかくの資源を生かしていないような気がしている。</p>
会長	<p>スローガンを考える上で、どういう環境基本計画にするのかということがまず大事。生活環境・水・大気汚染、様々な環境問題に蓋をしていく環境行政から、環境を良くすることで暮らしも良くなる、そういう環境行政を模索する時代になっている。米原市は、どういう環境を育てて市民の暮らしを良くしていくのかという視点が必要だ。そこを議論した上で、スローガンを考えた方がいい。そうすれば、藤田委員の言うような尖ったものになり、市民も自分たちが参加して目指していこうというものになるだろう。</p>

藤田委員	<p>米原市と「YUKKURI 米原」という市民団体とで協働事業を実施しており、平成 29 年度が 2 年目の取組となる。スローシティというイタリア発祥の認証制度があり、人口が 5 万人未満で、有機農業や食育など健康福祉等の分野で環境に取り組んでいるかなど 55 項目位の指標をクリアしていると認められると、スローシティに認定される。世界では 100 都市位が認定され、日本では気仙沼市だけが認定されており、今手を挙げれば全国で 2 番目になる。スローシティという一言を掲げるだけで、55 個の取組をしている小さな都市と言えるキーワードになるので、市と市民と一緒に取り組んではどうかという提案を協働提案の中でさせていただいた。いろいろな部署に関わる話なので、今すぐそれを使いましょうというのは難しいと思うが、1 年かけて庁内の調整や課題の洗い出しをしていただき、その言葉を環境基本計画で使えることを目標にさせていただけると、方向性が出そろうのではないかと。</p>
嶋野委員	<p>今のような考え方はとてもいいと思う。急がない生き方がこの町ではできる。それができるのは豊かな自然環境があるからだ。そういうところを打ち出していけるといいのではないかと。</p> <p>将来像はいつまでに決めないといけないのか。</p>
事務局	<p>平成 30 年度からスタートになるので、平成 29 年度中に決める必要がある。</p> <p>本日は、総合計画とリンクさせた提案となっており、仮置きとして御理解を頂きたい。副題をつけることや、短い文章で表すというようなことも可能であり、本日頂いた御意見は米原市の独自性を表すという意味で非常に重要なことなので、平成 29 年度中にしっかり議論をしていきたい。</p>
室谷委員	<p>私はここに書かれている将来像でいいのかなと思う。何かに特化していくと、たとえば伊吹地域と近江地域では同じ自然といっても全く異なり、生活環境も異なる。そこで何か 1 つだけ取り上げると、他の地域ではピンとこない部分があり、取組の中で軽重が出てくる恐れもある。市民全体が一つのところに向かっていくという意味では最大公約的なものがないのではないかと。たとえば学校現場では、市教育委員会の主導で「みんなで伊吹山に登ろう」という事業を実施している。伊吹地域の学校であればすぐイメージして向かっていけるが、米原地域・近江地域の学校では、確かに伊吹山も遠くに見えてはいるが、すぐ身近に霊仙山のある河南小など、なぜという意見もあると思う。第 1 次計画の理想像にはホテルが入っていたが、ホテルが入るか伊吹山が入るか、いわば同じようなものだと思う。市内全体でホテルが住</p>

	<p>める環境を作っていくというのはもちろん大事なことだが、ホテルに集中して取り組んでいる地域と、ホテルもあまりいないような地域とでは、ピンとくる度合というのが異なってくる。そういう意味で、やはり最大公約的なものがないのではないかと。ただ、今の案の「いのち育む水と」と「自然とともに暮らす」の間のスペースの意味が分からない。</p>
事務局	<p>特に意味を持たせていなかった。本日、皆様からいろいろな御意見をいただいたので、参考にさせていただきたい。</p>
会長	<p>指標についての御意見はどうですか。</p>
皆川委員	<p>数値指標は、取り組むべきものは示されたらいいと思うが、根拠が分かるものであることが大切。ここで示されているのは根拠があるのか。</p>
事務局	<p>具体的な指標についてはまだ全く着手していない。基礎調査報告書では、個別計画の指標の紹介としての記載に留めている。</p>
副会長	<p>個別の指標を挙げるか挙げないかが分かれ目だと思うが、中には単年度で変えていかざるを得ないような指標もあるので、環境基本計画の見直し期間を考慮し、目標はこうしたものであるというところに留め、基本的には個別の数値目標は入れない方がよいだろう。特出しをすべきものはしたらよいが、年を経る毎に個別計画との齟齬が出るので。</p>
藤田委員	<p>滋賀県のマザーレイク 21 計画の指標作りに関わっているが、「去年」あるいは「10 年前」と比較して、「良い、変わらない、悪い」等と評価、整理されているので参考にされたい。アウトプットとアウトカムの区別も必要だ。</p>
門脇委員	<p>基本計画の体系分野（１）（２）（３）はどちらかというと自然相手の部分なので、数値目標は難しい。何をやるか、どういうことをしたかが主体であり、あまり数字にこだわると関与できないところで影響が出る恐れがある。一方、分野（４）（５）は人の活動の部分で、規制なり目標なりを作らないと進みにくい。事業所では、経済活動については一生懸命やるが、環境については何か圧力が無いと後回しにされがちである。地域の自主性や主体性を引き上げる手法が必要ではないか。（１）（２）（３）は、数値目標はあまり意味がないと思うが、（４）（５）は、数値設定あるいは数値でない何かで、引き上げる手法を使った方がよいのではないかと。</p>

藤田委員	基本的な計画の構成として、それぞれの分野、項目ごとに目標最終年度（平成 39 年）における将来像を具体的に描き、それに向かってどうすればよいかが見れば分かる、それに対して行政はこういう取組をする、そういうかたちで整理すると、必ずしも数値目標がなくても向かう方向がはっきりするだろう。
会長	ありがとうございます。
	3 報告事項
事務局	事務局から、報告事項「平成 27（2015）年度版米原市環境報告書」について説明（資料 2、資料 4）。
青山委員	水質調査結果について、本来環境基準であれば年 12 回計測した上で、どの数字を取るか等も決められているので、この天野川の調査結果のみで水質の変化に言及しない方がよい。県が測定していない小さい川の測定もされているので、報告書全体として、それぞれの川の数値の目安を把握するものという見方をすべきだろう。
会長	温暖化対策について、市役所の取組ではなく市全体としての取組はどうなっているか。
事務局	現在、平成 30 年度から計画策定を始める方向で動いている段階であり、まだ計画を立てていない状況である。
室谷委員	廃棄物処理実績について、総量は減少しているが一人当たりは微増という説明があったが、総量も増加しているのではないか。過去と比較すると多少の増減はあるが、単純に 26 年度からだけを見れば増加している。
事務局	総量も増加しているので、訂正させていただきたい。
会長	生ゴミ堆肥化事業はどういうスケジュールで動いているか。
事務局	生ゴミは 28 年 3 月に終了しており、落排水汚泥、牛糞の搬入を 29 年 3 月で終了、10 月末までに堆肥化等を完了して事業終了と考えている。

藤田委員	ゴミ処理量の中で資源ゴミも合計されているが、リサイクルされているという前提に立てば分けてもよい。また、資源ゴミの収集量が年々減っているのはなぜか。
嶋野委員	スーパーなどでポイント変換できる回収場所があり、利用されている。
八上委員	量販店、スーパーなどの回収で量が減っているということと、管内人口が減少していることも、大きな要因の一つと考えられる。
嶋野委員	ゴミ処理量は他の都市と比べて多いのか、少ないのか。
八上委員	特別多い、少ないということはなく、普通程度である。
会長	事業系はどこに入っているか。
八上委員	事業系は可燃ごみのみ、湖北広域行政事務センターで回収しており、その他は産廃業者が処理することとなっている。
事務局	この報告書では、事業系は掲載しておらず一般家庭分のみ掲載している。
会長	可燃ごみでは何がが多いのか。家のごみを見ていると紙類が多いように思う。京都市は雑がみの別個回収、リサイクルを始めている。
八上委員	統計は出していない。
室谷委員	紙は資源ごみに出せるのか。事業所ではリサイクルに出すが、家庭では紙類は可燃ごみに出されている方が多いように思う。
事務局	新聞は別にする必要があるが、チラシ、雑誌はあくくりでよく、包装紙などもまとめて出していただくことができる。
門脇委員	可燃ごみの量が徐々に増えてきていることについて、小さな紙などは再生に回さずに燃やすほうがコスト上、管理上いいという発想もあろうが、市としての考え方をはっきりしておく必要がある。区分が曖昧であれば可燃へと考え方になるので、このままでは増えていくと思う。

八上委員	<p>補足すると、可燃ごみの量が近年増えている理由に、葉刈りの持ち込みの増加がある。今までであれば、田での野焼きなど自家処理されていた部分が、冬場でも持ち込まれるなど相当数増えてきていると判断している。</p> <p>業者に頼むと高いので、持ち込みをされる方が多い。</p>
会長	<p>行政が集めるとまた大変なので、大規模ではなく集落単位で、そこに持っていけば堆肥になるような仕組みにできればいいのだが。</p>
副会長	<p>本来その場で土に還していくべき大量のバイオマスを、別の場所に持って行ってエネルギーを使って燃やすというのは適切ではないと感じている。</p>
嶋野委員	<p>自分で刈った枝を燃やすのはだめなのか。</p>
事務局	<p>田での野焼きなど法律で認められた範囲では、きちんと管理するよう指導はするが不可とはしていない。煙の害について苦情があった場合は、風の方角や時間帯など近所へ配慮いただくようお願いしている。</p>
青山委員	<p>廃棄物処理法では野焼きは原則禁止となっているが、日常生活を営む上で軽微なものや田で燃やす行為などは例外として認められており、葉刈りについては判断が難しいが、大量に燃やせばやはりだめとなる。</p>
伊夫伎委員	<p>住宅付近の木を伐る仕事を請負うことがあるが、1 t 15,000 円で業者へ持ち込んでいる。太い分はチップとして利用するが、枝葉は産業廃棄物になる。可燃ごみとして住民が持ち込むと、住民の費用負担は軽くなるのだが。</p> <p>枝葉は、会長が言われたように業者が堆肥にしているが、竹は堆肥にならず処分しなければならない。</p>
会長	<p>ほか、よろしいですか。</p>
八上委員	<p>環境基本計画について、特に「人」や「循環」の体系分野においては、人口減少や高齢化について十分加味して業者委託を進めていただきたい。</p>
会長	<p>重要な点である。よろしくお願ひしたい。</p>
<p>4 閉会</p>	